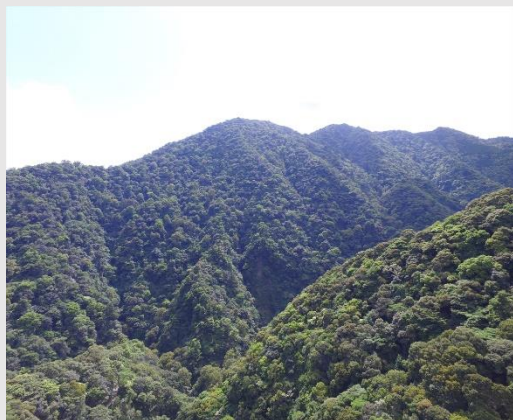


事例 18 希少な照葉樹林の保護林設定

(九州森林管理局)



- 宮崎県日南市(にちなんし)新村(しんむら)国有林
- 保護林設定予定箇所の様子

九州森林管理局では、宮崎県日南市の新村地区にまとまって存在している希少な暖温帯性常緑広葉樹林（照葉樹林）について、新たに「新村照葉樹林生物群集保護林（仮称）」を設定して保護・管理していくこととしました。

この地区には、地域の代表的な高木性照葉樹であるタブノキやイスノキ等が生育しています。平成 21 年度に生育・生息する野生生物の把握等森林調査を実施し、令和 2 年度に追加調査を行い、これらの調査結果を基に保護林設定区域（約 487ha）等の案を作成しました。この案に対し、有識者で構成する同局の保護林管理委員会から「保護林（生物群集保護林）の設定が妥当である」との意見が出され、新たな保護林を設定することとしました。

今後、令和 3 年度中に地域管理経営計画の変更により保護林を設定し、令和 4 年度から保護林としてより厳格な保護・管理を行うとともに、学術研究や環境教育の場として有効に活用していくこととしています。